

【概要】

本研究は、多様化する住民参加の運営のための知見を得ることを目的とした千葉ほか(2002)の研究方法にならったものである。彼らの認識に基づき、彼らの手法が学生参加のまちづくり活動に相互性を持つと仮定し、検証を試みたものである。その上で、学生参加の合意形成における課題を明らかにし、その継続のための知見を得ることを目的とした。富山市の中心市街地で活動する「街なかメイクアップサポーター」を事例とし、文献調査と活動経験者へのヒアリング調査から、課題を整理した。課題は、①学生主体の活動展開のきっかけ、②合意形成に向けたアプローチの方法、③継続的実現に向けた身軽な組織体制の3点に整理された。本研究の事例においては、③継続的実現に向けた身軽な組織体制が未整備であることが明らかとなった。そこで、千葉ほか(2002)の論文にならい、学生参加のまちづくり活動における学生による合意形成プロセスの継続のための体制を検討した。団体の現状を踏まえると、団体存続のために、この体制の早急な整備が求められる。